

# 令和3年度鹿児島県男女共同参画週間事業 パネル 数字で見るジェンダー平等～コロナ禍編～

このパネルは、令和3(2021)年度鹿児島県男女共同参画週間事業で作成されました。

私たちの社会にはどのような「男女格差」があるのか、コロナ禍にあって、どのような影響を受けたのか「数字」をキーワードに、「ジェンダー平等」について考えるものです。

パネルの大きさ：B2版 枚数：全9枚(縦)



令和3年度鹿児島県男女共同参画週間展示の様子  
(2021.7.25～7.31 かがしま県民交流センター)

## ◎各パネルのテーマ

- 1 はじめに
- 2 個性的な性別役割分担意識について
- 3 女性に対する暴力の状況
- 4 就業者数の前年同月差
- 5 平均給与(全国)
- 6 ひとり親世帯の平均年間就労収入(全国)
- 7 緊急事態宣言下(2020年5月第2週)におけるテレワーク実施状況
- 8 2020年の自殺者数の状況
- 9 健康への不安と懸念

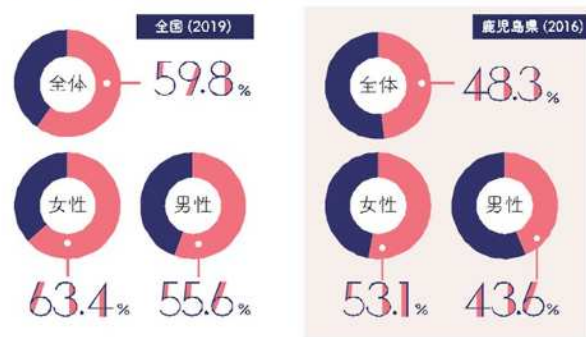
# 令和3年鹿児島県男女共同参画週間事業 パネル

## 数字で見るジェンダー平等～コロナ禍編～

パネルの一部を紹介します。

### 固定的な性別役割分担意識について

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について  
**「反対」+「どちらかと言えば反対」と回答した人の割合**



本県の県民意識調査（2016年度）において、初めて「反対」（48.3%）が、「賛成」（45.8%）を上回ったが、男女別に見ると、依然として男性では「賛成」（51.4%）する人の割合が、「反対」（43.6%）する人の割合より7.8ポイント高くなっている。

2019年内閣府調査では、「賛成」35.0%、「反対」59.8%となっている。

### 所定内給与における男女間格差

男性一般労働者を  
100とした場合の  
女性一般労働者の  
給与水準（2019年）

**74.3**

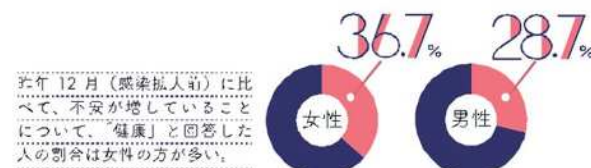
統計的差別 平均的に女性の報酬率・転職率が低い等の理由から、企業が女性を比較的に容易な職務に割り当てること等により、結果として女性の賃金が低くなることをいう。

### 賃金格差の要因

固定的な性別役割分担意識が平均値に基づくいわゆる「統計的差別」などを生んでいることや、正規雇用労働者と非正規雇用労働者の間の待遇差が大きいこと、長時間労働が有利であるなど女性に不利な職場環境・職種環境があることなどが指摘されている。

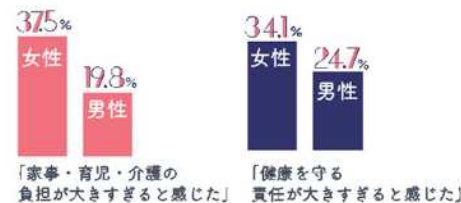
引用元「令和元年 男女共同参画社会に関する意識調査」/鹿児島県男女共同参画推進「平成26年度鹿児島県男女共同参画に関する県民意識調査」/内閣府「男女共同参画白書 令和2年版」/コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究報告書」令和3年4月

### 健康への不安と懸念



昨年12月（感染拡大前）に比べて、不安が増していることについて、「健康」と回答した人の割合は女性の方が高い。

第1区緊急事態宣言中に不安を感じた機会がどれだけあったか。女性の割合が高く、男性との差が大きかったもの（※小3以下の子供がいる有配偶の男女比較）



男女別に見た1日当たりの生活時間（週全体平均）の国際比較を見ると我が国は諸外国と比較して、男女ともに睡眠時間が短い。女性の方が男性よりも更に短い。

無償労働時間はどの国も女性の方が長い。男女比（女性/男性）が最も大きいのは、日本の**5.5倍**

一方、6歳未満の子供を持つ夫婦の家事・育児関連時間（週全体平均）について、我が国の夫婦合計の家事・育児関連時間は約**7時間57分**は、諸外国と比較して桁違いに長いわけではないが、育児時間は**4時間34分**となり、他の先進国と比較して際立って長くなっており、女性の育児時間**3時間45分**が諸外国の女性と比較して際立って長いことに由来している。

平時でも、諸外国に比べて女性の家事・育児の時間が長く、睡眠時間が短い状況の中、コロナ下で更に女性の無償ケアの時間が増加しているとすると、健康面の問題にもつながりかねない。



コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会「コロナ下の女性への影響と課題に関する研究報告書」令和3年4月